

■ 平山郁夫シルクロード美術館 News

■ The Hirayama Ikuo

■ Silk Road Museum

■ News

No.23

2018年3月発行



金華山の朝陽 1997年 45.5×60.5cm 個人蔵

平山郁夫は、平成に入る頃から「日本の風景」をテーマにした作品を数多く制作し、特に街道を描いた「路」シリーズである出雲路、吉備路、熊野路、讃岐路などは、失われゆく自然や歴史を描き残そうとした人気の連作である。

本作は、それら路シリーズの一つである「奥の細道」と呼ばれる中の一点で、タイトルからも分かる通り、俳聖・松尾芭蕉を偲んで描いたものである。ここで描かれる金華山とは、現在の宮城県旧牡鹿町（現・石巻市）の東南端にある島のこと。古代より島そのものが信仰の対象となり、海上交通や漁業などでも重要な拠点となってきた。『奥の細道』では、松尾芭蕉もこの島を目にしており、先の作品の「石巻の章段」でも窺うことができる。

さて、金華山や周辺については、その名の通り、金が産出される所で、古代においては東大寺・大仏の鍍金（金メッキ）の際、この地からも献上されている。平山にとって金華山を描くことは芭蕉を偲ぶこと、そして自身の画業テーマである「仏教」や「大和（奈良）」に通じる舞台であったためと考えられる。本作を鑑賞していると、どこか優しい気持ちとなってくる。その理由について画家は、自身の著書で以下のように述べている。

「日本の風景の特徴は、潤いにあると思う。緑豊かな自然にも、霧に包まれた町並にも、見る者をやさしくつつむ潤いがある。日本のどこを描いても、いつもやわらかな作品に仕上がるのは、この潤いのおかげかもしれない。」

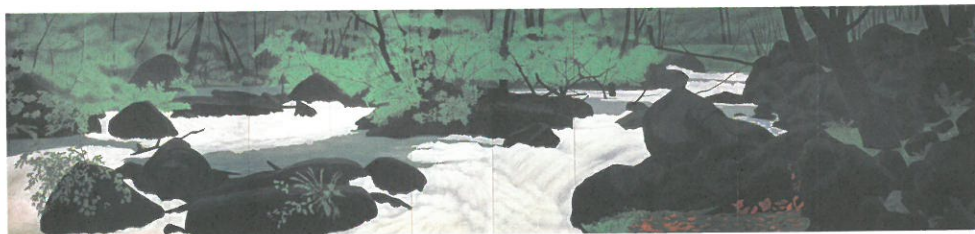
（平山郁夫『やすらぎの風景』（講談社・1995年）より）



平山郁夫シルクロード美術館

「平山郁夫 奥の細道 東北を描く」展

2018年3月10日(土)～9月11日(火)



《流水間断無(奥入瀬溪流)》
1994年

この度、平山郁夫シルクロード美術館では、日本の東北地方に焦点を当てた展覧会を開催することになりました。平山郁夫が東北の地に訪れたのは、1959年の東京芸術大学の副手の頃です。当時は被爆による後遺症で悩み、体調も思わしくありませんでした。そうした状態の中で目にした奥入瀬溪流について、画家は「生きる喜びを心から教えてくれた」と言います。これ以降、平山は東北に惹かれて何度か取材旅行を行い、平成に入る頃には俳聖の松尾芭蕉を偲んだ《奥の細道》という素描シリーズを発表し、金華山や立石



《奥州一の宮 塩竈神社本殿》1997年(個人蔵)

寺などを描きました。その他にも中尊寺や毛越寺

を描いた《平泉》の素描を発表するなど、画家にとって東北は思い入れのある場所でもありました。本展では、これら東北の素描作品と共に、当館の誇る大作《流水間断無(奥入瀬溪流)》をあわせてご紹介いたします。

※表紙の作品《金華山の朝陽》も同展にて公開



《毛越寺庭園 大泉が池》2000年(個人蔵)

Information ●

- ◆会 期 2018年3月10日(土)～9月11日(火)
※会期中無休
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆観 覧 料 一般1200円／高・大学生800円／小・中学生無料
※障がい者手帳をお持ちの方無料、介護の方1名まで600円
※70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円割引
- ◆主 催 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館
- ◆後 援 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、
朝日新聞甲府総局、山梨日日新聞社・山梨放送、信濃毎日新聞社、
ハケ岳ジャーナル、テレビ山梨、FM富士、FMハケ岳

次回の展覧会案内

平山郁夫 シルクロード紀行

コーナー企画

中国ガラス工芸の粹
鼻煙壺の魅力

2018年9月15日(土)～12月27日(木)

※会期中無休

他会場で見られる平山郁夫シルクロード美術館コレクション

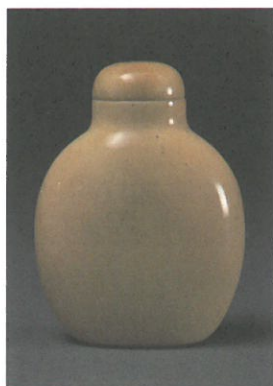
- ◆東京国立近代美術館「横山大観展」
2018年4月13日(金)～5月27日(日)(掛軸《寂静》1点)
- ◆佐久市近代美術館 「玄奘三蔵と仏教伝来」
2018年7月14日(土)～8月26日(日)(素描1点・スケッチブック4点)
- ◆京都国立近代美術館 「横山大観展」
2018年6月8日(金)～7月22日(日)(掛軸《寂静》1点)
- ◆都城市立美術館「平山郁夫展 よみがえるシルクロード」
2018年10月20日(土)～12月2日(日)(絵画約70点・コレクション約30点)

中国鼻煙壺に魅せられて

平山郁夫シルクロード美術館館長
平山美知子

日本は中国に学ばねばならない事ばかりなのに、少し話が進むと詫びなければ通れない壁に突き当たり、話が途切れてしまふ事がよくありました。

1975年6月10日、日本美術家代表団が初めて訪中した後の7月8日～22日。日本文物美術家友好訪中団では平山が団長で、私も一員として訪中することができました。中国国内は紅衛兵の造反がおさまったばかりと聞いていました。中国訪問が何度も出来るとは思っていませんでしたので何か良い思ひ出になるおみやげが欲しいと思っていました。北京の宿舍の北京飯店以外は一人で歩けませんので、貴賓楼のお土産屋を見るだけでした。ごたごたとしたお土産品の中で赤、青のガラスで模様をつけた小さなガラス瓶が嗅ぎ煙草の粉を入れる鼻煙壺でした。他の国で嗅ぎ煙草の風習がある事は知りませんでしたので、店の主人にいろいろ聞きましたが、私は中国語が出来ないのでいい加減だったと思ひます。小さなガラス瓶の小さな口には中の空気がもれない様な小さな蓋がついていてそれに小さな匙がついていて、中の粉煙草をすくい出すのだそうです。でもその店の小瓶には殆ど蓋が欠けているか小瓶とは別の材質のものがついている様でした。ずっと見ていると端の方にガラスの様に透けない白い鼻煙壺状のものがあります。なんと



鼻煙壺コレクション第一号

象牙で出来ているのです。インドで象牙の物はよく見ていましたので手に取ってみるとその小瓶の仕事がよくわかりました。蓋も象牙で、蓋をとると象牙の小さな匙がついていました。それは他のものとは特別に高価ですぐに買ふ気になれないで部屋に戻ったのですが、決心して買ふ事にしました。私の鼻煙壺第一号です。

平山は中国の紙や筆が欲しくて瑠璃庁るりちやんといふ町の文房具屋に案内してもらいました。その町は古中国の骨董屋街でした。その中に外の棚迄鼻煙壺を並べている店があるので入ってみました。鼻煙壺の材質には硝子、玉石、色々な石、水晶、琥珀、翡翠、瑪瑙、香木（伽羅、沈香）、竹、陶器など色々な素材を用いるものがあるそうです。その他に硝子瓶の中に細かい筆で風景、人物などの絵を描くといふものは上手、下手に

よって大変な差があり、普通の絵画と同じような人気があるそうです。その店には良いものはありませんでしたが中から下のものはたくさん見る事ができて、私は心の中で、もし平山の美術館が出来たら中国の鼻煙壺として、でなければ香水瓶にしてもよいので買っても良いとも思っていたのです。

その後、平山は中国へ行く機会がふえ、南京、西安、上海等大都会の博物館のショップで鼻煙壺を見ることができたのは数点で、良い物は出していない様です。だんだん鼻煙壺の事がわかるようになると、鼻煙壺は香港に集まるということがわかってきましたので、平山の手伝いをしてきている山崎さんに同行してもらい香港に行きました。香港には鼻煙壺のビルを建てている人もいて、良いものはどんな物かといふ事もよく分かりました。サザビーズのオークションにも出て、今まで知らなかった人々の鼻煙壺に対する熱気を知ったと思ひます。

私も中国に少しなれた頃、中国をよく案内してくれる方が音楽家の賈候きやこうさんを紹介してくれました。彼は自分の美術館を持っているような人で日中関係とは違ふ古い中国の良家の人といった人でした。彼は乾隆時代の黄色い鼻煙壺を持ってきたのです。私は今は中国にも行けませんし、古い中国と親しくする機会もないと思ひます。私の鼻煙壺収集も終わりました。



賈候さん(左)



賈候さんが持ってきてくれた黄色い鼻煙壺

撮影: chiaki kato

2017年化石発掘体験報告

平山郁夫シルクロード美術館 理事長
早稲田大学教授(古生物学者) 平山 廉

2017年の夏休みイベントとして「化石発掘体験」が2016年に引き続いて平山郁夫シルクロード美術館の2階野外ステージで実施されました。7月15日のプレに始まり、8月6日まで延べ15日間にわたって開催され、参加者総数は1830名に達しました。これは、開催日数が同じであった前年の参加者を500名近く上回っており、大成功のイベントとなりました。

イベントの内容は2016年とほぼ同じで以下の通りです。

1: 中生代白亜紀の琥珀(こはく)や化石の産地として知られる



2017年7月14日の朝、岩手県久慈市から9千万年前の地層が土納袋に詰められて美術館に届きました。その総数は150袋にもなりました。

岩手県久慈市の発掘調査現場の地層(久慈層群玉川層:約9000万年前)を土納袋に詰めたものを美術館に運ぶ。

2: ビニールシート(最多で5枚)の上に土納袋の中に詰めた地層を拡げて参加者に化石や琥珀を探してもらう。

3: 見つけた化石は、講師である私や入れ替わりで体験講師を務めていただいた渡部真人さん(早稲田大学講師)、大倉正敏さん(日本古生物学会会員)、宮田真也さん(城西大学)、および鶴野光さん(早稲田大学招聘講師)が鑑定。貴重であると判定された化石は「プレミア化石」として寄贈していただき、発見者の記念写真と共に館内に展示する。

というものです。これを毎日10時30分、13時、15時スタートの3部に分けて発掘体験会を実施しました。見つけた「プレミア化石」は合計で204点にもなりましたが、ワニ、首長竜(鰐竜類)、サメなどの歯、カメの甲羅、コブロライト(糞の化石)、虫?の入った琥珀、また「マユもどき」と関係者から呼ばれている謎



ビニールシートに拡げた9千万年前の地層から化石を探しているところです(7月28日)。講師を務めていただいた大倉正敏さんも化石探しのお手伝いをしています。

の化石などです。ほとんどの化石が日本では久慈市でしか見つからない貴重なものばかりです。参加者



体験終了後は参加者全員で記念撮影(7月16日)。昨年に続いて渡部真人さんが前半の発掘体験講師を務めてくれました。

の皆さんは初め静かに集中して化石を探していますが、見つかった化石が「プレミア」と認定されると一気に場内のボルテージがヒートアップする変化が手に取るように分かります。それを契機に「プレミア化石」が続々と見つかるという手に汗を握る展開になりました。残念ながらプレミアを見つけられなかったお客さんも琥珀や炭になった植物の化石などを見つけて満足していたようです。琥珀といえども、日本では久慈でしか見つからない9000万年前の樹脂の化石であり、花粉など肉眼では見

えない細かい化石が中に閉じ込められているのです。

化石発掘体験に参加していただいた皆様、特に子供たちの熱意にはスタッフ一同感銘を受けました。2016年の化石発掘体験では参加者のほとんどが山梨県在住の方でしたが、2017年はチラシなどの宣伝が行き届いてきたせいもあって長野県など山梨県外からの参



7月15日に見つかった大きなワニの歯。今回では最高のプレミア化石の一つでした。甲府市からいらした親子が発見したのですが、私もすっかり興奮してしまいました。国内で確認された中生代のワニの歯としては最大級であり、全長少なくとも3メートルはあったと推定されます。

加者も目立ってきました。遠く沖縄からご来場したお客様もいました。2018年の夏も大好評につき化石発掘体験の第3弾を予定しています。7月14日と15日にプレがあり、7月21日から8月7日まで続く予定です(水曜定休)。この夏も大発見を楽しみに参加していただければ幸いです。



平山美知子館長も発掘体験に参加しました(8月4日)。炭になった植物の化石を見つけていましたが、本人は物足りない様子でした。

◆第11回平山郁夫絵画教室の開催

平成21年、平山郁夫が講師となり小学生を対象に「絵を描く楽しさを伝えたい」をテーマに「第1回平山郁夫絵画教室」を開催しました。翌年からは、北杜市と東京藝術大学の連携協定のもと、東京藝術大学の講師をお招きして授業を行い、今年度も長坂中学を会場に実施しました。この長坂中学校で、北杜市内の全ての中学校を回りきることとなり、集大成として一つの区切りを迎えました。また、今年の本企画は「平成29年度文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の補助対象事業として実施致しました。



◆対象:長坂中学3年生 1組・2組(合同)・・・5、6校時 66名 ◆実施日:平成29年7月13日(木) 13時30分～15時20分
◆主催:公益財団法人 平山郁夫シルクロード美術館 ◆協力:東京藝術大学社会連携センター ◆後援:北杜市、北杜市教育委員会
◆講師:平諭一郎先生、梁取文吾先生、鷹濱春奈先生(東京藝術大学 社会連携センター「Arts & Science LAB.」所属)



生徒の作品は一人ずつ先生方が講評して下さいました。

今回は「日本画」と「文化財」をより手軽に伝えるための絵画ワークショップを考えました。日本画の粒子感のある下地の上に、それぞれ思い出の写真をモノクロで印刷しておき、その上から絵具で彩色することにより、手軽に日本画のような絵が仕上がります。また、東京藝術大学が開発した「文化財複製特許技術」を用いて制作した高精細複製物を鑑賞してもらい、日本文化を子どもたちに伝え、文化を育むワークショップを目指しました。その後、完成した作品は、9月16日(土)～11月12日(日)まで、当館2Fカフェ「キャラバンサライ」にて展示しました。

<前半>日本画を知る:日本画の画材(絵具や筆、和紙など)や掛軸、巻物などを見て、触れてもらう。

<後半>日本画を体験する:生徒が撮影した写真を下地に実際に描く体験授業。

先生方が、それぞれの賞を選定。

《平諭一郎賞》:小原健太さん、《梁取文吾賞》:宮澤直さん、《鷹濱春奈賞》:竹田僚亮さん

◆特別表彰、ふるさと親善大使

12月9日(土)に行われた「北杜市制施行13周年記念式典」において、当館が「特別表彰」をいただきました。「永年にわたり芸術文化活動に貢献するとともに、平山郁夫絵画教室の開催により市内小中学生への美術教育の振興に寄与された功績は誠に顕著であります」とのお言葉を頂戴しました。今後もスタッフ一同、地域文化のお役にたてる美術館として、精進して参りたいと思っております。また、同会場にて平山美知子館長が第一号となる「北杜市ふるさと親善大使」に任命されました。これは、「日々の活動の中で日頃感じている北杜市の魅力を広くPRする」ことを主たる目的としており、美術館スタッフと共に情報発信に努めて参ります。



◆認知症ケアプログラム

このたび当館では北杜市と連携し、認知症予防に資する検証事業として「対話型アートプログラム(アートリップ)」を開催致しました。

第1弾では、地域の方々にプログラムを知って頂くことを目的に講演会及びプログラム体験を実施し、第2弾では、実際に認知症の方とそ
のご家族をお招きし、プログラムを実施しました。

主催:北杜市

特別協力:公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館、一般社団法人ArtsAlive、
公益社団法人 認知症の人と家族の会山梨支部「虹の会」

参加費:無料

アートリップ…グループでアートを見て、進行役のアートコンダクター(案内人)の質問に答えながら参加者が感じたこと、
思ったことを自由に発言、共有する「対話型アートプログラム」。認知症の方とご家族と一般の方が対等に一緒に参加
することが可能。プログラムに参加することで自尊心が高まり、うつが軽減、QOL(生活の質)が向上すると言われている。



林容子氏の講演会の様子

【第1弾】

●日 時:平成29年12月8日(金)15:00~17:00

●対象者:認知症に係る専門職、認知症カフェ従事者

●参加者:30名(満員御礼)

I 講演(15:05~15:55)

テーマ「アートリップによる認知症ケア」

講師 アーツアライブ代表 林容子氏

II プログラム体験(15名×2グループ)(16:00~16:30)

アートコンダクター:横山綾子氏、輿石美和子氏

III 意見交換(16:30~16:50)

【第2弾】

●日 時:平成29年12月22日(金)14:00~15:30

●対象者:北杜市民、認知症の人とその家族

●参加者:30名(15名×2グループ/満員御礼)

I アートリップについての説明(14:05~14:15)

アートコンダクター 横山綾子氏

II プログラム体験(15名×2グループ)

(14:15~15:15)※移動時間込

アートコンダクター:横山綾子氏、輿石美和子氏

III 質疑応答・相談(15:15~15:30)

◆第8回 シルクロード研究会の報告

2月12日(月)、鎌倉市にある平山郁夫アトリエ(庫庵)において、第8回
シルクロード研究会を開催致しました。今回のテーマは「古代中国のコレ
クション-裂・幡・壁画断片」とし、当館が所蔵する古代中国コレクション4
点を取り上げました。壁画断片については、前回、講師を務めていただ
いた檜山智美先生(日本学術振興会・特別研究員/龍谷大学仏教文化
研究所 西域文化研究会)にお願いし、ご専門である図像学の見地から
お話いただきました。会場からも驚きの声が出るほどの研究成果をご発
表いただき、当館としても貴重な情報を得られる充実した会となりました。ま
た、裂(染織)や幡については、大塚裕一学芸室長が描かれた文様など
から解説を行いました。二人の専門家による解説の後には、参加者全員で
上記コレクションを間近に鑑賞し、会場にいた一同、普段の展覧会では
味わえない貴重な一時を得ることができました。



研究会の様子



コレクション鑑賞

◆賛助会員を10年継続していただいた会員の方々のご紹介

賛助会員を10年継続していただき心より感謝申し上げます。ご芳名を感謝を込めて掲載させていただきます。

【家族会員】 小谷野 哲郎様 小谷野 匡子様 永島 晶星様 永島 正子様

【個人会員】 磯山 文雄様 加藤 千世子様

○ワークショップ



4月15日(土)
「岳麓の春—風景を描く」(一般向け)
講師:中沢明子
参加者:10名



7月15日(土)～8月6日(日)
「化石発掘体験」(子ども向け)
講師:平山廉、渡部真人、大倉正敏、
宮田真也、鶴野光
参加者:1883名



7月15日(土)～8月6日(日)
「アンモナイト掘り体験」(子ども向け)
講師:ボランティアスタッフ
参加者:605名



7月17日(月・祝)
(甲府アイメッセ・夏休み自由研究プロジェクト)
「シルクロードのストラップ&
絵手紙コンテスト参加」
講師:ボランティアスタッフ3名、
美術館スタッフ1名
参加者:小学生85名



9月9日(土)
「ビー玉を使ってテレイドスコープを
作ってみよう」(子ども向け)
講師:斎藤美樹
参加者:6名



12月17日(日)
「不思議であやしい立像をつくろう」
(一般向け)
講師:吉野剛広
参加者:8名

○講演会

7月17日(月・祝)
「解剖学者、美と不思議を求めて」
講師:遠藤秀紀
参加者:51名

8月19日(土)
「シルクロードのガラス
—韓国慶州出土ガラス器を中心に—」
講師:関 丙勲
ギャラリートーク
講師:宮下佐江子
参加者:45名

○シルクロードフォーラム

11月18日(土)
講師:大平清、村山和之
参加者:83名

○スクールプログラム

4月13日 北杜市立甲陵中学校 1年生44名(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)
5月14日 東京外国語大学ペルシア語専攻 28名(展覧会見学)
5月22日 東京外国語大学ペルシア語専攻 30名(展覧会見学)
5月23日 北杜市立長坂小学校 3年生62名(展覧会見学)
6月15日 辰巳中学校(江東区) 53名(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)
7月27日 専修大学付属高等学校 美術部18名(展覧会見学)
9月16日 放送大学長野学習センター学生研修旅行 28名(展覧会見学)
9月22日 花田養護学校 6名(展覧会見学)
10月24日 北杜市立高根中学校 81名(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)
11月18日 文京学院大学「新・文明の旅」プログラム 18名(展覧会見学)

○シンポジウム

3月11日(土)
「アフガニスタン流出文化財の現状と未来—平山郁夫の遺志を継ぐ—」
パネリスト:青柳正規、前田耕作、井上隆史、山内和也 参加者:110名

○ワイン&クラフトフェスタ

9月30日(土)
「シニアソムリエによるワイン講座」
講師:小牧康伸 参加者:85名

9月30日(土)
「割り箸ピアニストのサミエル&アンビエント音楽家のNAO LIVE」
演奏者:サミエル・リリー、大塚直 参加者:90名

○第8回絵手紙コンテスト受賞式

7月22日(土)

○「第10回平山郁夫絵画教室」作品の展示

期間:9月16日(土)～11月12日(日)
長坂中学校3年生66名の作品を展示

○オープニング

7月22日(土)
「雲母 Kira 平山郁夫とシルクロードの
ガラス」展オープニング

開館カレンダー

4 April							5 May							6 June						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5						1	2
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

7 July							8 August							9 September						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4							1
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
29	30	31					26	27	28	29	30	31		23/30	24	25	26	27	28	29

3/10～9/11 「平山郁夫 奥の細道-東北を描く-」展
 9/15～12/27 「平山郁夫 シルクロード紀行」展
 7/21～8/7 「化石発掘体験」(水曜定休 7/14、15プレ開催)

4/29～12/2 「カフェキャラバンサライ」営業
 9/29、30 「ワイン&クラフトフェスタ」開催
 ※9/12、13、14は展示替えの為に休館 ※12/28～冬季休館

賛助会 だより

賛助会会員募集

賛助会は美術館の活動を支援するとともに、会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持管理などに使用されます。賛助会員にはさまざまな特典(詳しくは美術館HPをご覧ください)のほか、交歓会等イベントも予定しております。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

◆会費 個人会員…… 10,000 円
 家族会員…… 15,000 円
 法人会員…… 100,000 円

◆受付期間 随時受け付け(毎年7月に更新。12～3月までにご入会の方は初年度の年会費は半額、4～6月ご入会の方は翌年6月末日まで有効)。

◆申込方法 申込用紙に必要事項をご記入のうえ美術館にご郵送いただき、所定の銀行口座に会費をお振り込みください。申込用紙ご希望の方は、美術館HPからダウンロードするか、美術館にご請求ください。

お知らせ

4月1日㊦ Restaurant 亜絲花がオープン

美術館に隣接するレストランが新しいシェフ薬谷和紀さんによる「Restaurant 亜絲花」としてオープン。八ヶ岳の旬の食材を用いた季節感のあるお料理がお楽しみいただけます。また、ランチでは世界三大料理の一つであるトルコ料理も味わうことができます。

《ランチ》

11:00～15:00

◇ランチ ¥1,000～

《ディナー》

17:00～22:00

◇ア・ラカルト ¥350～

◇コース ¥3,000～

〒408-0031

北杜市長坂町小荒間2004-5

Tel:0551-32-6835



平山郁夫シルクロード美術館

平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第23号 2018年3月発行

発行 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6

Tel 0551-32-0225

URL <http://www.silkroad-museum.jp>

